

老眼とは

老眼は40歳前後から始まる誰もがなる眼の老化で、水晶体の調節力が弱まった結果、近いところが見えにくくなる症状を指します。



老眼をほおっておくと

老眼鏡を使わないで見えにくいのを我慢していると、老眼に眼精疲労が重なって体調に支障が出る場合があります。

（目や頭が重い、頭痛がする、肩こりがする、食欲がなくなるなど、個人差はありますが、いろいろな症状がでてきます。）

人によっては、こういった身体症状の原因が老視による眼精疲労の結果、生じていることがあります。

近視の人は老眼にならない？

一般に、近視の人は老眼になるのが遅く、遠視の人は老眼になるのがはやいといわれていますが、この考えは正しくありません。

近視の人は老眼になっていても、正視、遠視の人と比べてもともと近いところにピントが合っているため、その分だけ水晶体の調節を必要とせず、見かけ上、老眼になっていないようにみえます。

検査でわかる眼の病気

眼科を受診された場合には、まず視力をはかかって、近視、遠視、乱視などの屈折異常がないか検査します。

次に細隙灯顕微鏡検査、眼底検査などで眼に病気がないか調べ、必要に応じて眼圧や視野の検査などを行います。

検査を行うことにより、老眼以外に眼の病気がないか確認することが必要です。

老眼のコンタクトレンズ

今までメガネを使わずに主としてコンタクトレンズを使ってきた患者さんには、老眼鏡を新たにかけることに抵抗があるかもしれません。

そのような患者さんのために、現在さまざまな遠近両用コンタクトレンズが市販されています。これは一枚のコンタクトレンズの中に、遠くを見る部分と近くを見る部分が複雑に組み込まれているものです。

遠近両用メガネ

遠近両用メガネとは、メガネレンズの上の部分に遠くを見るレンズ、下の部分には近くを見るレンズが入っていて、視線を上下に動かすことによって、1つの眼鏡でと遠くも近くも見えるという便利なメガネです。



※せっかく適切な老眼鏡やコンタクトレンズを作成しても、読書をする際にきちんとした照明を用いてないと眼精疲労の原因になります。

照明にも気を配るようにしましょう。(ˆoˆ)

当院では眼鏡処方およびコンタクト処方も行っておりますので、お気軽にご相談下さい。